礼拝説教（2019年3月24日）

説教者：中村信哉

主は与え、主は取られる

ヨブ記1章1-22節

はじめに

今年から、毎月第四主日の説教は、旧約聖書からの説教となっています。私が旧約聖書から説教する時は、「ヨブ記」から説教することにしました。

ヨブ記のテーマは、「正しい人がなぜ苦しむのか」ということです。正しい人が栄えて、悪い人が苦しむなら分かる、しかし現実には、悪い人が栄え、正しい人が苦しむことが起こる、それはなぜなのか？というものです。

私たちは、イエス様を神、救い主と信じるクリスチャンです。それによって私たちは、すべての罪が赦され、主なる神様の前に義（正しい）と認められました。しかしイエス様を信じてクリスチャンになったからといって、苦しみや悲しみを経験しなくなるわけではありません。クリスチャンになっても、多くの苦しみや悲しみを経験するものです。病気になることも、自然災害に遭うことも、愛する家族を失うことも、財産を失うことも、事故や犯罪に巻き込まれることもあります。そして私たちはやがて死を迎えます。ヨブ記は、私たちが人生の中で経験する苦しみや悲しみの中で、どのように生きればよいのかを教えてくれる書物ではないかと思います。

1. ヨブという人

ヨブという人は、**「誠実で直ぐな心を持ち、神を恐れて悪から遠ざかっていた」**人でした。彼のような人は地上に一人もいないほど、彼は主なる神様を愛していました。

彼は神様に祝福されて多くの財産を持っていました。**「羊七千匹、らくだ三千頭、牛五百くびき、雌ろば五百頭、それに非常に多くのしもべ」**がいました。

彼の家族はどうでしょう？彼には**「息子七人と三人の娘」**がいました。彼の子どもたちは、非常に仲が良かったようです。息子たちは順番にお互いの家を行き来して、娘たちも招いて一緒に食事をしていました。ヨブはそんな子どもたちを愛していました。彼ら一人ひとりのために全焼のいけにえを神様にささげて、罪の贖いをしていたのです。

ヨブは神様と家族を心から愛する人でした。そして神様から祝福されて、多くの財産と仲の良い家族を与えられた人でした。

2. 主とサタンの会話

しかしある時、サタンがヨブに心を留めて、主なる神様にこう言ったのです。**「ヨブは理由もなく神を恐れているでしょうか」**。サタンは、ヨブが神様を愛しているのには理由がある、

それは、神様がヨブに多くの財産と仲の良い家族を与えているからだ、もし神様がヨブから多くの財産と仲の良い家族を奪えば、ヨブはたちまちあなたを呪うに違いない、と言うのです。つまりサタンは、ヨブの信仰は「御利益信仰」だと言うのです。

サタンは、**「地を行き巡り、そこを歩き回って来ました」**と言います。サタンは、人間の心や神様との関係をよく観察しているのです。その結果サタンは一つの結論を見出したのです。人間は理由もなく神様を愛さない、人間は神様の御利益があるから、神様を愛しているに過ぎない、神様の御利益がなければ、誰も神様を愛さない、御利益が取り去られれば、人間は平気で神様を見捨てる、というものです。

サタンは神様に言うのです。神よ、ヨブはあなたを愛していない。ヨブはあなたの御利益を愛しているに過ぎない、ヨブは自分の幸せのためにあなたを利用しているに過ぎない、あなたはヨブに利用されている、そう言って、サタンは神様とヨブの関係を壊そうとしたのです。

サタンは、私たちと神様との関係を壊そうとする存在です。私たちと神様との間に不信感を抱かせ、私たちと神様を引き離そうとするのです。

しかしサタンは、神様の許可なく何もできない存在です。神様はサタンに、**「では、彼の財産をすべておまえの手に任せる。ただし、彼自身には手を伸ばしてはならない」**と言われます。

こうして神様は、サタンにヨブの財産を自由にする許可を与えました。そしてこのことを通して、ヨブの信仰は御利益信仰かどうかが明らかにされていくのです。

3. ヨブの試練

サタンはわずか一日のうちに、四つの災難をヨブに与えます。①シェバ人の襲撃によって、牛とろばを奪い取ります。②神の火（落雷）によって、羊を焼き滅ぼします。③カルデア人によって、らくだを奪い取ります。④大風（竜巻）によって、十人の子どもの命を奪います。そして多くの若いしもべたちも殺されました。

ヨブはわずか一日のうちに、多くの財産と仲の良い家族をすべて失ったのです。四つの災難の内、二つは自然災害（落雷・竜巻）、二つは人の手による人災によるものでした。

ではヨブはこのような激しい試練を経験した時、どのような態度をとったでしょうか。20節以下にはこうあります。**「このとき、ヨブは立ち上がって上着を引き裂き、頭を剃り、地にひれ伏して礼拝し、そして言った『私は裸で母の胎から出て来た。また裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな』。ヨブはこれらすべてのことにおいても、罪に陥ることなく、神に対して愚痴をこぼすようなことはしなかった」**。

ヨブはこのような激しい試練の中でも、神様を礼拝することを決して止めませんでした。ヨブは「主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな」と告白しました。ヨブは、自分の財産も家族も自分の力で手に入れたものではなく、主なる神様によって与えられたものであると信じていました。それと同時に、自分の財産も家族も主なる神様によっ

て取られたと信じたのです。つまり祝福も試練も両方、主なる神様によって与えられたものであると信じたのです。

しかしヨブは、神様を呪いませんでした。むしろ神様を賛美したのです。ヨブはすべての祝福を失っても神様を礼拝しました。ヨブの信仰は、御利益信仰ではなかったのです。

ヨブはすべての財産と家族を失っても、神様を失わなかったのです。すべてが失われても、神様への讃美はヨブの口に残ったのです。すべてを失っても、神様だけは共にいてくださったのです。

御利益信仰は、私たちが祝福の中にいる時だけ神様を信じる信仰であり、祝福を失ったら神様をも捨ててしまう信仰です。それは、神様御自身に頼っているのではなく、神様の祝福に頼っていると言えます。目に見えない神様に頼っているのではなく、目に見える存在に頼っているのです。

私たちは財産や家族を大切にします。それらを神様から与えられた祝福として感謝して受け取ります。しかしそれらに頼り切って、それらに依存して生きてはならないのです。それらはいつか失うものです。私たちは、最後はひとりで、すべてを遺してこの世を去って行くのです。

しかし主なる神様は、いつまでも私たちと共にいます。死を超えて永遠に共にいてくださいます。主なる神様は、**「わたしは決してあなたを見放さず、あなたを捨てない」(ヘブル 13:5)**と言われます。

私たちは財産や家族に依存する生き方ではなく、主なる神様を信頼して自立した生き方をしなければなりません。財産や家族に依存する生き方は、常に失う不安や心配を抱えて生きることになります。そして依存し過ぎると、関係が壊れてしまいます。しかし信仰は、私たちを自立させます。主なる神様に頼って生きる生き方こそ、本当の自立した生き方だと思います。主なる神様に頼って自立して生きる時、財産や家族と適切な距離感をもって生きることができるのです。

ではどうしたら主なる神様との関係を築くことができるのでしょうか。生まれながらの人間は、罪の問題を解決しない限り、決して主なる神様との関係を持つことはできません。自分の罪を認めて悔い改め、私たちの罪を十字架で贖ってくださったイエス様を信じるしかありません。イエス様を主なる神様と信じるのです。主なる神様との関係は、自然にできるものではありません。明確にイエス様を主なる神様と信じる決心が必要です。そして口で告白する必要があります。イエス様を信じる人は、主なる神様との関係を築くことができます。主なる神様との関係は、一度結んだら決して切り離されないものです。すべてを失っても共にいてくださいます。財産を失っても、家族を失っても、健康を失っても共にいてくださいます。私たちが死んだ後も永遠に共にいてくださいます。

おわりに

ヨブは一日のうちに財産と家族を失いました。ヨブは、この試練が主なる神様の御手の中にあることを信じていました。しかし、それがなぜなのかは分かりませんでした。ヨブは、サタンと神様の会話を知らないからです。

サタンと神様との会話から分かることは、ヨブの試練の原因は、ヨブの罪によるものではないということです。ヨブが何かの罪を犯したから、災難を招いたわけではありません。つまり神様の祟りや罰などの因果応報ではないということは、はっきりしています。

しかしサタンの策略は、私たちと神様との関係を壊すことです。私たちの中に神様に対する不信感を抱かせることです。そして神様を見捨てるようにさせることです。

私たちは、すべての出来事は主なる神様の御手の中にあることを信じています。私たちの人生に起こる苦しみや悲しみもすべて、神様の御手の中にあることを信じています。しかし、なぜ神様がそのことを許しておられるのか。なぜ神様がすぐに助けてくださらないのか。なぜ神様は沈黙しておられるのか。それは私たちには分かりません。分からないことが私たちをさらに苦しめます。

サタンは、私たちに主なる神様への不信感を抱かせます。神様はあなたを愛していないのではないか。神様はあなたを怒っておられるのではないか。神様はあなたを見捨てたのではないか。神様は本当はいないのではないか、と囁きます。

私たちは、試練の意味を完全に知ることはできません。それは、私たちには隠されていることです。しかし主なる神様が私たちを見捨てることは決してありません。パウロは言いました。**「死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るものも、力あるものも、高いところにあるものも、深いところにあるものも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません」**(ローマ 8:38-39)。

私たちを主なる神様の愛から引き離すものは何もありません。イエス様の十字架の贖いによって、私たちの罪はすべて赦され、私たちは義と認められているからです。もはや主なる神様が、私たちの罪に従って私たちを裁くことは決してありません。そうであるならイエス様の十字架の贖いは無意味になってしまいます。

私たちは試練の意味を完全に知ることはできません。しかしその意味は分からなくても、主なる神様の愛を決して疑ってはなりません。主なる神様が共にいてくださることを決して疑ってはなりません。私たちから主なる神様の愛を奪い去ることができるものは、この世に何もありません。私たちは、財産を失い、家族を失い、健康を失っても、主なる神様御自身と主なる神様の愛だけは決して失うことはないのです。

私たちは、最終的に何に頼って生きるのでしょうか。財産ですか。家族ですか。それとも「主なる神様」でしょうか。